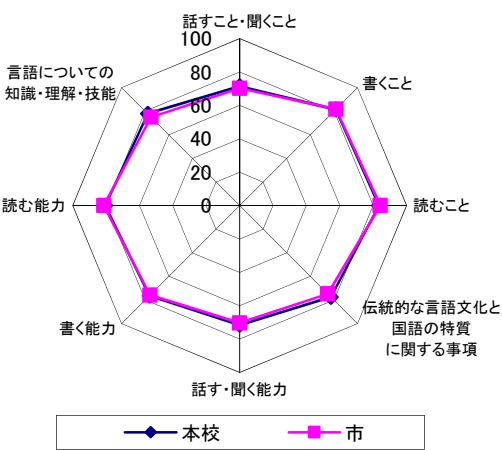


宇都宮市立西原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	71.5	70.3	68.2
	書くこと	81.5	81.7	80.6
	読むこと	83.5	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.4	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	71.5	70.3	68.2
	書く能力	76.5	76.0	74.1
	読む能力	80.5	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	77.8	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

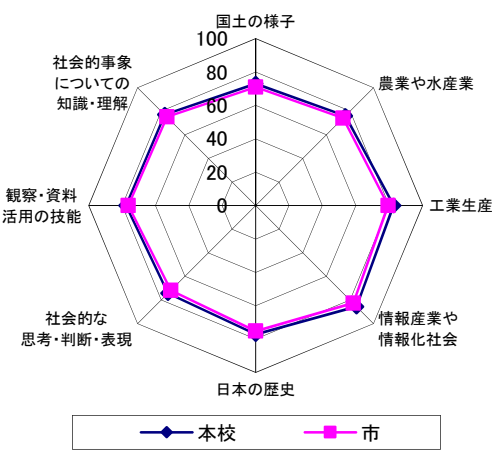
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し方の意図を考えながら、話し合いの内容を聞き取る問題や、司会者の役割を理解して計画的に話し合おうとする問題は良くできていた。 ●与えられた情報を読み取り、話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける問題に課題があった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で、説明文の要約をできるように指導するとともに、グラフや写真などの資料からわかることを文でまとめる活動に力を入れる。
書くこと	○指定された長さで文章を書くことや、2段階構成で文章をまとめることは良くできていた。 ●グラフから読み取った事実を書いたり、それをもとに自分の意見を書くことに課題があった。	・国語はもちろん、他教科の授業の中でも、資料や図・表などから分かることを文章でまとめる活動を積極的に取り入れる。その際、読み取った事実に沿って自分の意見を書くことを意識させ、よくまとまっている児童の文章を紹介するなどして書く能力の育成を図る。
読むこと	○物語の内容の読み取り、登場人物の心情や場面の描写を読み取りの問題は、よくできていた。 ●目的や必要に応じて、場面の描写と登場人物の心情の読み取る問題に課題があった。	・登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、そのことによって、内面にある深い心情も合わせて捉えることにつなげて指導していく。また、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して表現されていることに着目し、想像を豊かにしながら読んでいくことに重点を置いて指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○5・6年の配当漢字を書く問題の正答率は、市の平均に比べて高かった。 ●4年の配当漢字と、文の構成(連体修飾語)についての理解に課題があった。	・今後も朝の学習や宿題等も含めて習熟を図っていく。 ・文や文章の中でことばや漢字を適切に使えるようにするために、意味調べや例文作りも合わせて行う等、漢字やことばを調べる習慣を付けられるよう指導していく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	73.1	71.0	69.4
	農業や水産業	76.0	74.0	69.0
	工業生産	82.7	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	85.6	82.8	88.7
	日本の歴史	77.1	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	74.4	71.9	67.2
	観察・資料活用・技能	77.6	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	77.1	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

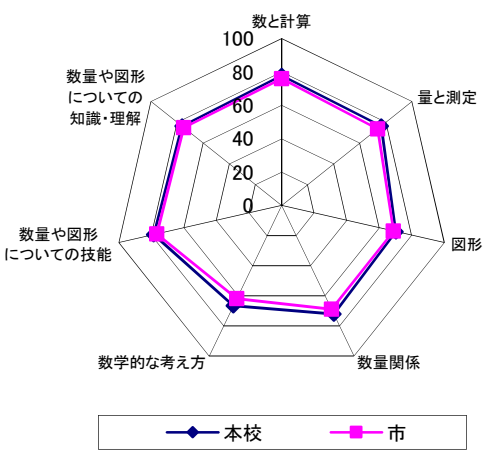
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○日本の周辺の国の国旗についての問題や、国土の主な山脈、川、平野の名称についての問題の正答率は、市の平均に比べて高かった。 ●日本の周辺の海洋名についての問題の正答率は、市の平均に比べて低かった。	○児童が地球儀や地図帳を利用して調べたり確認したりしたことを白地図に書き入れる活動を行う。また、隣接する大陸や海洋の位置関係から日本の位置を文で表現する学習を行う。
農業や水産業	○稲作の工夫や努力について資料を読み取る問題や、稲作に従事している人々の、食の安全確保のためのくふうについて考える問題の正答率は、市の平均に比べて高かった。 ●47都道府県の名義と位置の理解をもとに、日本の主な食料生産物の分布の資料を読み取る問題に課題が見られた。	○授業の中で、都道府県ごとの特産物を自然条件や社会条件の観点から考える活動を行う。また、実際に広告やパンフレットなどを用いて調べ学習を行い、日常生活に結び付けて考える活動を行う。
工業生産	○工業生産に従事している人々による環境保全への取り組みについて考える問題の正答率は、市の平均に比べて高かった。	○日本の産業については、調べて確認したことを白地図の中に書き入れたり、それぞれの工業地域・地帯の特徴を表にしてまとめたりする活動を行い、知識が十分に定着できるようにする。
情報産業や情報化社会	○情報産業の役割・責任や情報ネットワークについて考える問題の正答率は、市の平均に比べて高かった。	○情報ネットワークや情報の利用の仕方については、身近な問題という意識をもたせ、自分はどうのようにしていくとよいかしっかりと考えて学習できるように指導していく。
日本の歴史	○明治時代、大正時代についてよく理解できていた。 ●縄文時代から平安時代の問題の正答率が市の平均に比べて低かった。特に聖徳太子の十七条の憲法の目的の理解が課題であった。	○各時代の内容理解について習熟を図るために、単元ごとにその時代や人物・文化等の特徴を捉えてまとめる学習を行う。その際に教科書・資料集だけでなく、自分で収集した資料等も活用するよう指導し、出来上がった作品を読み合う活動も取り入れ、理解を深められるようにしたい。 ○資料の読み取り方を示したり、資料を比較して考える活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.9	76.1	73.5
	量と測定	76.3	73.6	70.1
	図形	70.2	68.8	66.6
	数量関係	72.1	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	66.7	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	78.6	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	76.3	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

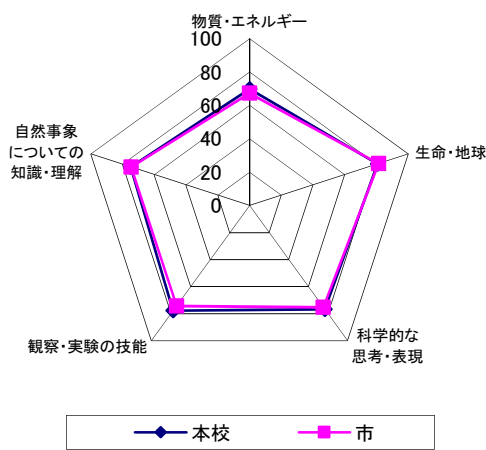
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数の計算・整数のなかま分けの基礎的な問題の正答率が8割を超えており、よくできていた。また、活用問題も、市や国の平均正答率よりも高かった。 ●分数の除法の計算の問題の正答率は、市や国に比べ低く、課題があった。	・基本的な計算力を身に付けられるようにするために、授業や家庭学習で間違った問題はなぜ間違えたのか、どのように解けばよいのか理解できるまで根気強く取り組むよう指導していく。
量と測定	○単位当たりの大きさについての問題は、市や国の平均正答率よりも高かった。 ●直径が与えられた円の面積を求める式を選ぶ問題が、市や国の平均正答率よりも低く、課題があった。	・今後も、授業において自分の考えを式や図、数直線などを用いながら文章で書く活動を積極的に取り入れていく。 ・文章問題では、問題場面を図や数直線などで整理する活動にも力を入れていく。
図形	○六角形の内閣の和を求める式を選ぶ問題は、市や国の平均正答率よりも高かった。 ●対称な図形に関する問題は、市や国の平均正答率よりも低く、課題があった。	・様々な図形を作図する活動を今後も多く取り入れ、それぞれの図形の特徴をしっかりと理解できるようにする。 ・線対称や点対称の図形の特徴を話し合ったり、それらの図形を描いたりする活動を多く取り入れながら、理解できるようにする。
数量関係	○比例・反比例や割合と比についてのすべての設問の平均正答率が、市や国より高かった。 ●2つの文字を使って表された式についての問題の平均正答率が、市や国よりも低く、課題があった。	・算数の用語をしっかりと理解できるよう、教科書のまとめの部分や算数の用語については、自分の考えを発表する場面の中でも繰り返し使っていくことを指導していく。 ・計算や解決の仕方についての理解を深められるように、解き方が間違っている問題を与え、どの部分が間違っているのかを説明する活動も取り入れていく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.9	67.3	64.4
	生命・地球	80.6	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	76.7	75.3	72.6
	観察・実験の技能	77.8	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	74.9	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○物のとけ方に関するすべての設問の正答率は、市や全国の平均に比べて高かった。既習した内容についてプリント等で繰り返し復習を行っていた成果であると考えられる。 ●空気中の物質の組成についての設問の正答率は、市や全国の平均に比べて低く、課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・系統を踏まえた指導を意識し、プリントや問題集等で過去の問題に触れる機会を多くしていく。 ・授業で実験や観察を行った際、結果を記録するだけでなく、自分の考えを文章や絵、図などを用いて記述する活動を積極的に取り入れていく。
生命・地球	○人のたんじょうに関するすべての設問の正答率は、市や全国の平均に比べて高かった。映像や資料から分かった内容をノートにまとめる活動が効果的であったと考えられる。 ●植物や動物のつくりとはたらきに関する問題の中で、市や全国に比べて正答率が低いものがあり、課題がみられた。	・今後も、教科書の内容を学習するだけでなく、図鑑やインターネットを利用して調べたり、ノートや新聞にまとめたりする活動を充実させていきたい。 ・生物分野において課題がみられたので、生き物を育てたり観察したりする活動を多く取り入れる。また、実験や観察が難しいものについても、デジタル教材や映像資料を活用し、定着を図っていく。

宇都宮市立西原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着	西原小「学習の約束」をもとに基本的な学習態度の徹底をすることができるよう全教職員で共通理解を図った。また、朝の学習や家庭学習で漢字練習や計算問題を繰り返し学習するよう支援し、基礎・基本の定着に取り組んできた。	国語・算数・社会・理科についての知識・理解や技能の調査結果を見ると、市平均を上回っている。しかし、アンケートに関する調査から、授業を集中して受けていると答える児童の割合が市の平均を下回っているため、授業への取組について重点的に指導する必要がある。
他者との協同的な学び	言語活動の充実や学び合いの場の設定により、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の展開を全教職員で共通理解を図って取り組んできた。	学び合い(互いに理解、共感し合いながら自己の学びを深める)を大切に授業を行ってきた。このことが、各教科各領域でおおむね市平均を上回る結果となったと思われる。
授業におけるまとめと振り返りの充実	授業の中で本日の課題に対するまとめを板書して全員で確認し、各自が分かったことを振り返り、ノートに記述する時間を設けてきた。	国語・社会・算数・理科の4教科で、授業展開・板書・ノート・振り返り活動を研究の内容とし、学びを深め広げる学習指導を目指して研究を行ってきたので、書くことへの抵抗感は少ない。国語で、読み取った事実を基にして意見を書くことに課題があったので、その点については指導していきたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・ 日常の授業で、自分の考えを書く時間を確保できるよう工夫をしていく。
- ・ 学期末に複数単元の内容をまとめた復習を行う。
- ・ 学校全体として少人数指導や個別指導の充実を図り、学習内容の定着を図る。
- ・ 児童の発表を聞き合う時間を毎時間取り、学びを広げていけるようにする。
- ・ ノートが一人一人の学びの記録となっていることを児童が実感できるようなノート指導を行う。
- ・ 振り返りの場面では、本時の授業で何をどのように学んだかを板書やノートを見直しながらまとめさせた後、自分の変容に目を向けて振り返らせる。